

人形淨瑠璃

文 樂

二〇二〇年十月 地方公演

【主催】文樂協会 【後援】文化庁 【助成】芸術文化振興基金・朝日新聞文化財団



二人三番叟
摂州合邦辻
合邦住家の段

昼の部



本朝廿四孝
十種香の段
奥庭狐火の段
釣女

様茂都陸平 || 振付

夜の部



芸術文化振興基金助成事業

©青木信二

2020年10月 地方公演チケットお問い合わせ先

- 9月30日(水) JMSアステールプラザ(広島県広島市) 082-244-8000
- 10月2日(金) 電力ホール(宮城県仙台市) 022-714-1022
- 3日(土) けんしん郡山文化センター(福島県郡山市) 024-536-8010
- 5日(月) 札幌市教育文化会館(北海道札幌市) 011-271-3355
- 8日(木) 北野文芸座(長野県長野市) 026-233-3111
- 9日(金) 石川県立音楽堂(石川県金沢市) 076-232-8632

- 10月11日(日) 大井川文化会館ミュージコ(静岡県焼津市) 054-622-8811
- 15日(木) 穂の国とよはし芸術劇場 プラット(愛知県豊橋市) 0532-39-3090
- 16日(金) 名古屋市芸術創造センター(愛知県名古屋市) 052-249-9387
- 17日(土) 所沢市民文化センターミューズ(埼玉県所沢市) 04-2998-7777
- 18日(日) 神奈川県立青少年センター(神奈川県横浜市) 045-263-4475

※新型コロナウィルス感染症の感染拡大状況によって、公演を中止する場合がございます。

二〇一〇年十月地方公演配役表

昼の部

解説（あらすじを中心に）

二人三番叟

豊竹亘太夫

二人三番叟

（人形役割）
豊竹藤太夫

二人三番叟

（人形役割）
豊竹津國太夫

二人三番叟

（人形役割）
豊竹希太夫

二人三番叟

（人形役割）
豊竹希太夫

二人三番叟

（人形役割）
鶴澤清志郎

二人三番叟

（人形役割）
鶴澤清志郎

攝州合邦辻

合邦住家の段

中	前	後
豊竹	鶴澤清	鶴澤清
鶴澤清	鶴澤清	鶴澤清
亘太夫	亘太夫	介

（人形役割） 合邦道心	（人形役割） 合邦女房	（人形役割） 玉手御前	（人形役割） 玉手入平	（人形役割） 玉手姫	（人形役割） 桐竹勘	（人形役割） 桐竹勘	（人形役割） 吉田勘	（人形役割） 吉田勘	（人形役割） 吉田勘
吉田	桐	吉	吉	吉	吉	吉	吉	吉	吉
譽	竹	田	田	田	田	田	田	田	田
	竹	勘	勘	勘	勘	勘	勘	勘	勘
	十	十	十	十	十	十	十	十	十
	哉	哉	哉	哉	哉	哉	哉	哉	哉
	い	い	い	い	い	い	い	い	い

望月太明藏社中

二人三番叟

天下泰平・五穀豊穣を祈る能『翁』をもとにした『寿式三番叟』は、お祝いごとに際して上演されるおめでたい演目。本作は、その後半、二人の三番叟が、袖を振りて舞い、力強く足踏みをする「探ノ段」と、鈴を手に種まきのしぐさをしながら四方をめぐる「鈴ノ段」とを独立させたものです。太夫、三味線、人形いずれもが躍動感にあふれ、足遣いが踏む足拍子やシャンシャンと鳴り響く鈴の音もリズミカルで心地よい、楽しい作品です。

攝州合邦辻 合邦住家の段

安永2年（1773）、大阪の北堀江市ノ側芝居で初演された、菅助・助・若竹笛躬合作の二巻の時代物。繼母の傭いにより病となつて四天王寺（大阪市）に捨てられ、恋人の尽力で救われる『しんとく丸』、繼母の恋を拒んで家を出、自ら命を捨てる『あいこの若』、これら説経で知られた物語を題材とし、お家乗つ取りの陰謀を絡めてあります。

若くして老主君の後妻に迎えられた、もと腰元の玉手は、年の近い継子俊徳丸に恋し、突如として難病にかかつた俊徳丸が家督相続を諦めて館を去るや、あとを追つて家出。行方を探しあぐねて立ち寄つた両親の家で、許婚の浅香姫とともに匿われていた俊徳丸を見つけると、恋心をあらわにして縋りつき、邪魔な姫に暴行。また、俊徳丸の病は、姫に愛想尽かしをさせようとして、玉手が毒を盛つたことも判明。曲がつたことの大嫌いな父合邦は、非道な娘を許せず激怒し、涙ながらに刺し殺します。ところが、死を前に玉手が明かしたのは、思いも寄らない真実。恋も毒もすべては、継母として大切にすべき継子の命を救うため。玉手が見せる邪な恋と嫉妬、合邦の怒りと悲しみ、心情の激しさに圧倒される人気演目です。

本朝廿四孝 十種香の段・奥庭狐火の段

將軍足利義晴暗殺犯は誰―武田信玄、長尾（上杉）謙信、斎藤道三、山本勘助らが絡む、近松半二ほか合作の五段の時代物で、明和3年（1766）、竹本座初演。今回は、長野県の諏訪湖畔に設定された謙信の館を舞台とする、美しさあふれる四段目をご覧いただきます。

武田家の重宝諏訪法性の兜を謙信が借りたまま返さず、両家は敵対。和睦のため、信玄の息子勝頼と謙信の娘八重垣姫が許婚に。しかし、その後、勝頼は切腹。が、実は生きていて、暗殺犯を見つけ出すべく、花作りの簪作に姿を変え、謙信の館へ潜入しました。

絵姿を前に亡き許婚を恋い慕い、泣き暮らしていた姫は、絵姿そつくりの簪作にびっくり。恋しさを抑えられず、簪作に縋りつき、ついに勝頼その人と知つて大喜びしますが、簪作の正体を見破つて謙信が、勝頼を塩尻へ行かせ、あとから討手を。何としても、討手より先に追いつき大切な許婚を救わなければ、とはいえ、凍った湖に船は出せず、陸路では間にあわず、諏訪明神に頼るほかないと、姫は、諏訪法性の兜を前に一心に祈願。すると、明神のお使いである白狐の姿が。水の上を狐より先に渡れば溺れるとのことですが、狐が守護する兜があれば大丈夫なはず。姫は、勝頼に返すべき兜を手に湖を渡ることに。「お姉の胸のときめきが聞こえるような、優美な『十種香』、諏訪湖の『御神渡り』を取り込んだ『奥庭狐火』では、狐が登場、早替わりもあり、舞台は熱気に包まれます。

釣針

狂言『釣針』をもとに明治時代に作られ、のちに歌舞伎舞踊となつた常磐津の作品を、義太夫に取り入れたもので、昭和11年（1936）、四ツ橋文楽座で初演。えびす信仰の中心地、西宮神社（兵庫県西宮市）を舞台とした、明るく、愉快な景事です。

西の宮の恵比須様に妻を授けてほいと祈願した大名と太郎冠者。釣好きな恵比須様のお告げは、釣竿で妻を釣れというものの、大名が釣り上げたのは、小野小町か楊貴妃かという絶世の美女。さうそく祝言をあげ仲睦まじい一人。その様子に気も焦り、大急ぎで釣竿を手にした太郎冠者は、針先について来た女性を見て、大はしゃぎ。変わらぬ愛を誓つてから、相手の顔を見ると…。

観劇当日に発熱や風邪のような症状のある方、体調のすぐれないお客様はご無理なさらず、来場をお控えください。
観劇時は咳エチケットの励行ならびにマスク着用・手洗い（手指消毒）の徹底などの感染症対策にご協力のほどお願い申し上げます。

櫻葉都陸平 振付

釣針	太郎冠者	豊竹	太郎冠者	太郎冠者
釣針	大名	豊竹	太郎冠者	太郎冠者
釣針	美女	豊竹	太郎冠者	太郎冠者
釣針	醜女	豊竹	太郎冠者	太郎冠者
釣針	本名	豊竹	太郎冠者	太郎冠者
釣針	本名	豊竹	太郎冠者	太郎冠者
釣針	本名	豊竹	太郎冠者	太郎冠者
釣針	三輪太夫	豊竹	太郎冠者	太郎冠者
釣針	鶴澤清	清	太郎冠者	太郎冠者
釣針	鶴澤清	清	太郎冠者	太郎冠者
釣針	鶴澤清	清	太郎冠者	太郎冠者
釣針	鶴澤清	清	太郎冠者	太郎冠者
釣針	鶴澤清	清	太郎冠者	太郎冠者

望月太明藏社中

◎字幕表記がございます。席によっては字幕が見えにくい場合がございますので、あらかじめご了承ください。

◎出演者の急病ややもを得ない事情により、代役もしくは演目を変更して上演する場合がございます。

◎開演中の写真撮影・録画録音ならびに携帯電話・スマートフォン等の使用は固くお断りいたします。